

1) 目標設定の意義

具体的な目標設定の意義：

- (1) 学生に学習目標を理解させる
→ 学習のガイド，モチベーションのための刺激
- (2) 学生と教員との間の学習目標や評価についての情報交換を容易にする
- (3) 複数教員が担当する場合，学習目標や進度について共通の理解を得やすい
- (4) 学習方略・評価法の設計を容易にする
- (5) 学習目標を達成したか否かを評価しやすい
- (6) 他学部・大学（国内・国外）との単位互換や第三者による大学評価の際などにも必要である

2) 教育目標の持つべき性格

(1) 現実的であること

- ①教育目標は，学習者がそれに到達したときにどのような問題を解決できるか，またどのようなニーズを満足するかを明らかにしなければならない。そのような場合にのみ，教育目標は学習者のモチベーションを刺激することができる。
- ②教育目標の設定には，学習者のニーズを反映させる必要がある。また前もって学習者に理解されている必要がある。
- ③教育目標は，柔軟性をもち状況の変化に応じて変更されるべきものである。

(2) 理解可能であること

- ①教育目標は，互いに関連して編成されなければならない。
- ②教育目標を示すときには，達成されるべき行動を教育目標分類学（taxonomy）に基づいて記述した方がよい。

(3) 測定可能であること

- ①教育目標が達成されたかどうかを評価するためには，測定可能な指標を用いなければならない。そのためには観察可能な行動用語で示されていないなければならない。
- ②教育目標を設定するときには，学習者が目標の達成を目指す際のしべルや制約も考慮しなければならない。

(4) 行動的であること

- ①教育目標は，学習者の行動を表す用語で具体的に示されている必要がある。項目を列挙するのみでは教育目標にならない。
- ②学習者の到達目標には，認知，情意，精神運動の3領域が含まれていなければならない。これらの3領域の中で，「精神運動領域」すなわち技能目標は最も具体的に示しやすく，「情意領域」はもっとも示しにくい。

(5) 達成可能であること

- ①教育目標は，学習の原理にのっとって心理的に実行可能な用語で述べられているべきである。
- ②教育目標は，その達成のために必要な時間や人的・物的資源などを確認したうえで設定されなければならない。
- ③教育目標は，それを達成するのに必要な最低のしべルを示すように記述されていないなければならない。

注) 上の(1),(2),(5)は一般目標と到達目標に共通の条件であり，(3)と(4)は到達目標に共通の条件である。

3) 学習目標の記述

(1) 2原則

- ①センテンスの主語を学習者にして書く。
- ②学習経験の結果、いかなることができるようになるかを表す動詞を含む文章で書く。

(2) 一般目標の記述

- ①知識、技能の学習がなぜ重要か＝それらがどのように利用されるか、それによって学習者のニーズがどのように満たされるかを明らかにする。
(目的を明記する＝・・・するために)
- ②総括的な概念をもつ動詞を用いて表す。
例：微生物学で
(医学生が) 尿路感染症感の診断と治療ができるようになるためにこの疾患の微生物学的特性を理解する。
動詞:知る, 認識する, 理解する, 感ずる, 判断する, 価値を認める, 評価する, 位置付ける, 考察する, 使用する, 実施する, 適用する, 示す, 創造する, 身につける
- ③必要な目標分類(認知・態度・技能)を総括的に含める。
例:腎臓についての問題を一般医として正しく管理できるようになるために, 基礎的な腎臓疾患患者の診断・治療における問題解決能力と臨床的技能と臨床的態度を身につける。
- ④・・・のためにを文頭にまとめてもよい。

(3) 到達目標の記述

学習単位の一般目標を達成するために, どのようなことができるとよいか具体的言葉で書く。

- ①学習者を主語として書く。
- ②動詞を含む文章とする。
- ③「理解する」のような概念的言葉でなく, 観察可能な行動を具体的に表す。
- ④一般目標と関連していること。
- ⑤到達レベルを書く。
- ⑥認知, 態度, 技能をわけて書く。

4) 目標分類・動詞・レベル

認知領域

列記する, 列挙する, 述べる, 具体的に述べる, 説明する, 分類する, 比較する, 対比する, 類別する, 関係づける, 解釈する, 予測する, 選択する, 同定する, 弁別する, 推論する, 予測する, 公式化する, 一般化する, 使用する, 応用する, 適用する, 演繹する, 結論する, 批判する, 評価する

情意領域

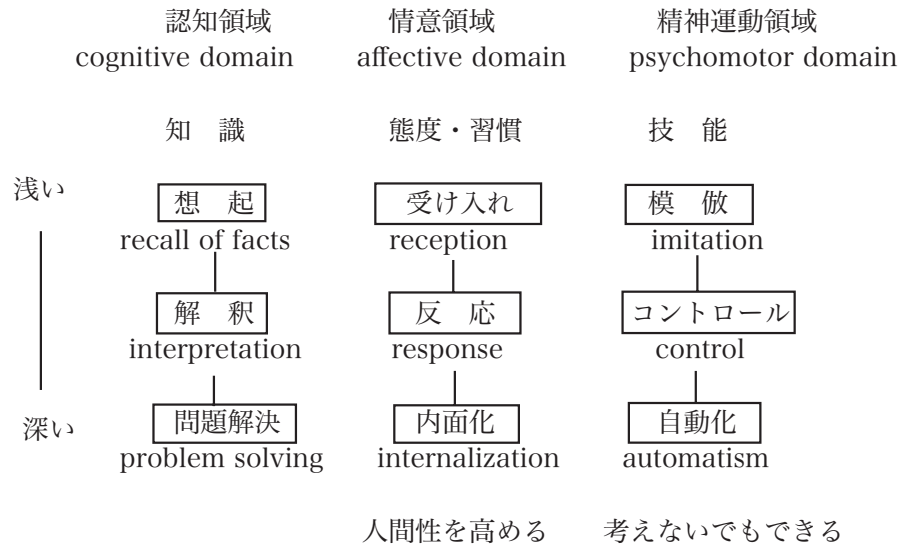
行う, 尋ねる, 助ける, コミュニケートする, 寄与する, 協調する, 示す, 見せる, 表現する, 始める, 相互に作用する, 系統立てる, 参加する, 反応する, 応える

精神運動領域

感ずる, 始める, 模倣する, 熟練する, 工夫する, 実施する, 行う, 創造する, 挿入する, 操作する, 動かす, 手術する, 触れる, 調べる, 準備する, 測定する

表 教育目標分類学 (taxonomy)

3領域 (3 domains)



5) カリキュラム作成のフォーマット

専攻の名称 (学部, 専攻, または学科以下も同じ)

- 一般目標
- 1.
 - 2.
 - 3.

単位 (科目) の名称 (専攻を構成する科目 (単位) をいくつかあげる)

科目の種類

- 1.
- 2.
- 3.

科目名

- 一般目標:
- 1.
 - 2.
 - 3.

到達目標: (できるだけ3つの領域を網羅する)

- 1.
- 2.
- 3.

方略
評価
備考

6) 授業設計のフォーマット

講義題目：(授業内容を具体的にあらわす)

概要：(科目名のみではわかりにくいところをおぎなう説明)

一般目標： 科目の目標

1. のために (科目名と関連して目標を先に示す)
 - 2.
 - 3.
-

到達目標：(3領域：知識、態度・習慣、技術)

1. (どの領域を目標とするか、そのレベルまでを)
 2. 到達目標とするかをわかるようにあらわす)
 - 3.
-

学習方略：(多元的方法、順次性、資源 人的・物的資源)

1. (授業の順にしたがって授業内容を示す)
 2. (実際の授業には授業日程、担当者も示す)
 - 3.
 - 4.
 - 5.
 - 6.
 - 7.
 - 8.
 - 9.
 - 10.
 - 11.
 - 12.
 - 13.
 - 14.
 - 15.
-

評価

- | | | |
|----|-------------------|---|
| 1. | (各評価項目の評価比率をあらわす) | % |
| 2. | | % |
| 3. | | % |
| 4. | | % |
-

備考

1. (授業に必要なその他の事項、教科書、手順などを記す)
 - 2.
 - 3.
-

※単位とは何か？

単位制度では学生の学習時間 45 時間をもって 1 単位 (90 時間で 2 単位) としている。

(内訳) 15 時間の予習 + 15 時間の授業 + 15 時間の復習

北大では 90 分の授業を 1 週に 1 回行い 15 週繰り返して 2 単位 (実験・実習、体育 (実技)、外国語、総合科目では 1 単位) としている。この場合、計 60 時間の予習、復習についても指導を行わなければならない。